

連光寺・若葉台里山保全地域農的活用検討会（第4回）

◎日時

令和4年2月24日（木） 18時～20時

◎会場

市役所東庁舎会議室

◎出席者

<オンライン>

委員 八木会長

オブザーバー 東京都緑環境課平野課長代理

<対面>

委員 山田副会長、萩原委員、小形委員

オブザーバー フナキ氏

鈴木市民経済部長、渡邊経済観光課長、沖迫農政担当主査

長谷川公園緑地課長、芦澤みどり担当主査、下田主事

※ 鈴木環境部長 欠席

◎資料構成

資料1 第3回検討会要点録（案）

資料2 検討会検討報告書（案）

資料3 連光寺・若葉台里山保全地域事業 長期スケジュール 案

資料4 農業公園等の事例調査結果

資料5 令和4年度の取組内容・スケジュール 案

資料6 令和4年度試験事業 案

◎内容

議事1 第3回検討会のふりかえり、要点録の共有

市 要点録案などを説明

⇒ 意見・質問なし

市 2月末までに気付いた点があれば連絡ほしい。

議事2 検討報告書案についての検討・確認

市 第3回時点での案から変更した部分の説明

都

資料2 7p「環境面への影響についてどのような方法で観測するのかを東京都とともに検討していく」という表記があるが、何をモニタリングするかが決まっていない。観測という表現を使うのは観測することが確定してしまっているように見えるがいかがか。

資料2の3頁について、活用可能性の中にクローバー広場という表記があるが、クローバーに限定するのはどうなのか。

委員

必ずしも環境的な指標でなく、なんらかの確認を行うということでもよいのではないか。写真記録によるモニタリング等もある。

都

影響を確認しながら〇〇するとかの表現でもよいのではないか。

委員

影響を確認しながら〇〇するなどでもよいと思う。

文面については事務局と調整させていただく。

クローバーだと何か問題があるのか。

都

在来種のをなるべく利用していきたいという趣旨から、クローバーという言葉を入れるのはいかがなものかと思った次第である。

市

クローバー広場の話は、斜面もあるので安全に遊べたほうがいいかなという趣旨での意見であったと記憶している。

オブザーバー

果樹をうえたら下草をはるのは普通のことである。クローバーに限定する必要はない。

下草整備などでもいいのではないか。

委員

その方向で検討させていただく。

委員

資料2の7頁のハードとソフトと資料3の整合が取れるようにするよう工夫してほしい。

委員

様々な人が関わるのでリスクマネジメント（苦情・ケガ）への対応を運営体制のところあたりに入れた方がいい。農事業の参加者も安心できるし、何か起きた時に慌てなくて済む。

資料5（令和4年度スケジュール案）も報告書の中に入れてほしい。

市

資料2の7pと資料3の整合について、完全一致しようとする書き入れることが多くなりすぎる。ハード面に吊り合うようにソフト面をもう少し充実させたい。

委員

本文は理念的にして、詳細は資料3というのもありかもしれない。

市

リスクマネジメントについては、環境リスクのマネジメントと混同されないように書き方を工夫したい。

委員

体験を行う市民の募集の際に、保険などについて記載した方がよいのではないか。

市

農体験事業は市主催の行事であるため、基本的に参加者には市が加入する賠償保険の対象となるという認識である。

市

試験事業の段階では基本的なリスクは市が負うというイメージである。事業が進展していくに連れて、リスク管理も担い手側に引き継いでいくという考えかと思う。

委員

資料5か資料2の今後の課題の中で入れておいてもよいかもしれない、または段階的な整備のところに書くという方法もある。

市

記載について検討する。

委員

緑肥の在り方の検討について、過去の検討会でも、ひまわりとかムギ系などについての意見があったと思うが、実験という形でもいいので、どこかのタイミングで実際に播種してみた方がよい。基本的に被害があるようなものではないと思う。

維持管理について、直近及び来年度の日々の管理はどのように実施していくのかももう少し具体的に見えたらよいと思う。

委員

緑肥や維持管理についてはもう少し書いてもいいと私も思う。

市

資料5は報告書につける。

委員

今回は最終回なので残りは会長と事務局で調整し修正していく。

議事3 令和4年度の事業と今後について

市

ワークショップは、基本的に作業や体験と紐づけられたらと考えている。

今年度よりじゃがいもの先行的な試験を実施してまいりたい。

土壌診断は4月以降を想定している。事務局のほかのメンバーから補足はあるか？

市

まず、議事2の際に委員からいただいたご指摘について答えたい。緑肥について、麦系だとライムギ、エンバク系かと思う。ただし両方とも外来系なのでどうしようと迷っているところもある。それと、緑肥についてはひまわりもあるというのが以前の検討会の中でも意見として挙げたところだったが、事務局の方で緑肥のやり方について知識を持ち合わせていなかったことから、検討が進んでいなかったという状況である。緑肥についてご助言いただきたい。

維持管理については、じゃがいもは3月に委員の指導のもとで直営での植え付けを考えている。芽かきなどの中間作業については市の職員で実施する想定をしている。職員が農業技術を学ぶということも目的の一つである。収穫については、サツマイモの体験事業参加者に行ってもらうことを想定している。

オブザーバー

移動式トイレはずっと置いておくイメージか？

市

公園所管の比較的大きいものを持っていく予定である。し尿処理は予算要求している。鍵がかかるタイプであり、常時開放はしない予定である。

委員

トイレのレイアウト・配置は？

市

し尿処理・運搬のことを考え、道路付け良い場所への配置を予定している。

委員

試験事業初年度の地図やレイアウトの共有はするのか。

市

レイアウト案は今後作成し、検討委員の皆さんと共有したいと考えている。

委員

全部を事前に決めることは難しいだろうが、随時確認していけるとよいだろう。

市

全体スケジュール案にも示したように、メンバー間で意見交換、キャッチボールをしながら、また、見える化もしながら進めていくということではいかがだろうか。

委員

何らかの形で意見交換をしながら進めていけばいいと思う。

市

緑肥は何がいいのか。

委員

外来種であることの是非を言い出したらキリがないだろうし、緑肥は行えない。

自分自身は緑肥をつかったことがないが、まわりから良いと聞くのはマメ科のヘアリーベッチ、ソルゴー、麦である。

オブザーバー

麦は国産のものもあるので無難かもしれない。
畑にするなら何かしら緑肥はやっておいた方がいい。

委員

春からがいいのか秋からでもいいのか。

委員

麦なら秋播きでもいい。

委員

耕作エリアを広げるという考えもありえるか？

市

試験事業をやっていく中でそういった意見が出れば耕作エリアを広げるのもありえると思う。

委員

肥料は無しでいくのか。

市

施肥区、無施肥区をつくるということはいかがか。

オブザーバー

土の状態が分からない状態なので比較するのは良いと思う。
様々な肥料があり、施肥のパターンも色々ある。
無施肥だとちょっと難しいのではないか。

委員

全く取れないのもよくないと思うから、肥料を入れる区画も作った方が良い。

市

委員が用いている肥料を頂戴し、それを農地に入れることは可能だろうか？

都

既に集水域内で使われている肥料であると安心感は大きいのではないかと思う。

委員

レイアウトを決めながら進めていきたい。

委員

pH で変わってくる。石灰は使っているのか。

オブザーバー

石灰も種類がある。有機のタイプに限定するのか、しないのか。許容範囲が分からない。どれなら使っているのか、いけないのか。農業であれば何かしら肥料を入れる場合は多いし、栄養分は下流側に流れていってしまうので、どのあたりを許容範囲とするか。ダメなものをリストに挙げるのか、使ってよいものをリストに挙げるのか。

委員

現地の草を見た感じではそれほど悪い状態ではなさそう

p h を測ってみたいとは思いますが、自分の経験ではほうれんそう以外は石灰などを入れなくてもできると思う。

土壌を把握しておきたい

土壌診断をすると何をどれくらい入れればよいか結果がでてくる。

委員

土壌診断を行う場所も決めた方がいいのではないか。

委員

検体数によって場所が変わる。

一般的には畑ごとに4隅と真ん中で5か所から土を採取する。

委員

保全団体の方々が納得できるような環境に関する指標をいただかないと、なかなか判断できそうにない気がする。

市

環境配慮に関する進め方については、難しい部分が多く、気を付けながらある程度試行錯誤していかないと分からないのではないかと担当者としては考えている。

都

試行錯誤をする過程で、湿地の環境や成分に何か起きたでは遅いと思う。

本来であればこういうやり方だったら大丈夫だろうというのがわかって進めるというのが一番良いとは思うのだが、本日は、今後、ジャガイモやサツマイモなどを植える段階において最初に肥料や農薬を使い続けるタイミングがいつなのかをうかがいたい。それまでに何かを提示できるのであればしていきたい。

委員

結果を明確に評価できるは別として、都の方で何かの項目を測っていただくことはできるのか。

都

どういう形だったらできるというのは断言しづらいし、また時間的に間に合うのかがわからないが、都と市で協力しながら行っている事業であるので、検討はしていきたいと思う。

委員

生物的な指標はどなたかが調べているのか。

都

湿地の生物のモニタリングは可能かと思う。

委員

まずはそれを定期的に教えていただくとかではどうか？

たとえば大事な生物が生息できているかどうかをモニタリングを続けていくのはいかがか。

都

生物は色々な影響や要因で増減するため、生物調査によって必ずしも農薬や肥料の影響を正確に確認することはできない。

湿地については貴重な生物が多いので、来年度生きものの調査をすることを検討している。

委員

そういうことがなされるのであれば、環境教育的な意味も含めて農業の在り方を考えたりするような機会も可能になるかもしれない。

都

農薬や肥料を使いだすタイミングはいつ頃か。

委員

その前に一点だけ申し上げたい。現地での過去の農業がどうであったかをふりかえってみると、農薬や肥料の使用などを含めて、一般的なやり方で耕作がなされていた。その状況下で希少な生きものが生きてきたということも皆で共有しておいた方がよいのではないか。

市

さつまいも、じゃがいもの栽培に農薬を使う予定は現時点ではない。ニジュウヤホシテントウ（テントウムシダマシ）やアブラムシ等は手で取る。

堆肥は3月から使う。

委員

まずは農薬を使わないもの、使わなくても育てやすいものを中心に育てていけばよい。何年か後に農薬を使わざるをえない植物を育てたくなってきたときにどうするかが問題だろう。肥料を抜いてつくれば、虫はあまり寄ってこないのではないかと思う。

都

堆肥については地域の方がこれまでに使っているものを利用したり、購入してもらえると安心であるが、そういう対応をとっていただくということによろしいか。

委員

構わない。堆肥の原料は市内のものを使っている。

議事4 その他

委員

何かそのほか検討・確認したいことはあるか？

オブザーバー

試験事業についてどのように告知する予定か。

市

農業公園づくりに係わってもらおうというのを初めから出していないと、話が違うとなりかねない。

初めから農業公園をつくることを明言していったほうが、今後も継続して係ってくれる人が来るのではないか。

調整が済んだら、検討会メンバーにはこういったものでどうかというのをご連絡させていただく予定だ。

都

この報告書がオープンになる予定の時期は？

市

3月の市議会での報告を踏まえて、4月頃になる見込みである。

委員

今後、皆さんにこのように修正するとお伝えし、検討会の成果物として確定する。

委員

一言ずつ感想などあればお願いしたい。

委員

耕耘を来週行う予定である。これから完成するまでの長い期間、対応していければと思う。私の所属機関の職員には多摩市内で農業公園ができることを頭にいれておいてと職場で発表した。

委員

農業30年やってきたが、初めてやることばかり。無肥料栽培や緑肥での土づくりも初めてで楽しみであり不安でもある、たくさんの方の知恵でつくっていければと思う。

委員

初めて話をもらったときは市外の私が係わっていいのかなと思ったが、今は来年以降も係わっていきたいと思っている。我々は人とかかわりの中でやっていく団体であるため、引き続き法人としてかかわっていきたい。

オブザーバー

農業公園での関わりは初めてであった。公園緑地が多い中での農業への取り組み、アプローチに興味がある、今後もかかわっていきたい。

委員

初めは計画も農地も更地であったが、皆さんのおかげで計画が進んできた。これは生産緑地を残していく大事な試みである。今後も関わっていききたい。

市

今回、報告書にフナキ氏の名前をいれてよいか。

⇒ 委員一同賛成

ハイスピードの検討会だった。農業活動ができる場所を残すという趣旨で白紙から始まったが、ここまできた。来年度も引き続きよろしくお願ひしたい。

閉会の挨拶

環境部長

環境と調和した農事業と難しい中でまとめていただき、有意義な報告書ができあがった。気象危機対策の中で農地をどう守っていくか、そうした意味からも有意義な会であった。来年度から試験事業が始まる、引き続きよろしくお願ひしたい。

※ 公園緑地課長代読